

「絵画の制作 A」

幼児・児童教育学科准教授 武石 英孝

第4回目を7月19日に実施しました。

担当：コミュニティカレッジセンター



今回は、モデルデッサンの最終日。自分の絵を少し離れたところから見たり、他の受講生の絵も見ながら、気になるところを細部まで直し、作品が完成しました。講座の後半は、作品の批評会を行いました。

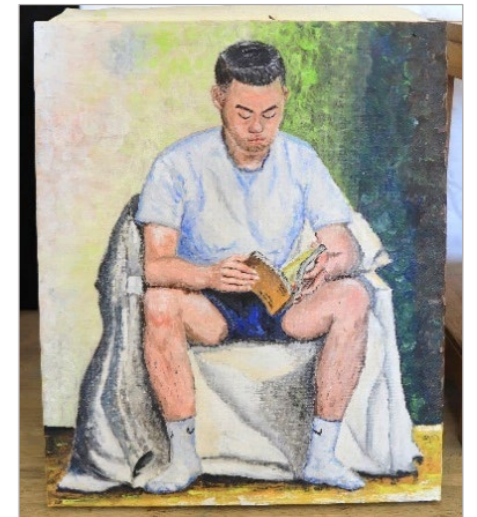
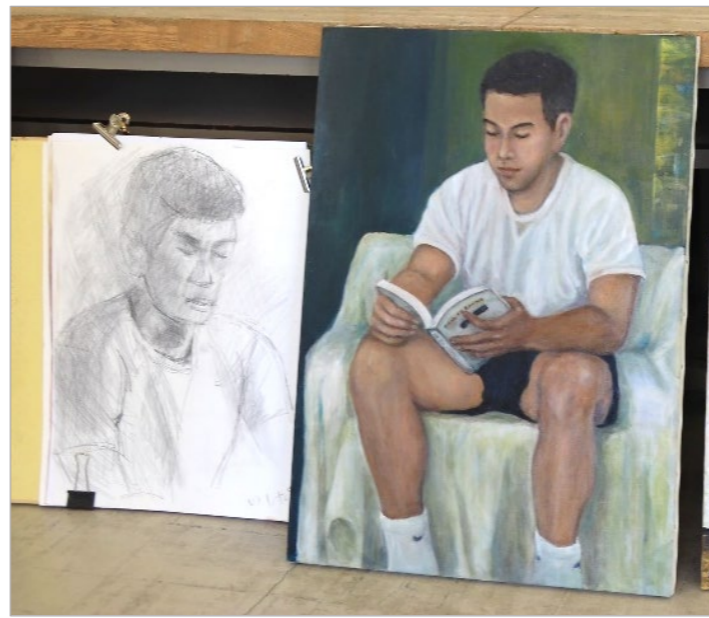
武石先生より

今回は、男子学生にモデルを依頼しました。鉛筆デッサンをはじめ、水彩・油彩・コンテ等、各自の個性が発揮された作品が出来上がりました。とても描き慣れた皆さんで、積極的に制作する姿から、今後の展開が楽しみです。

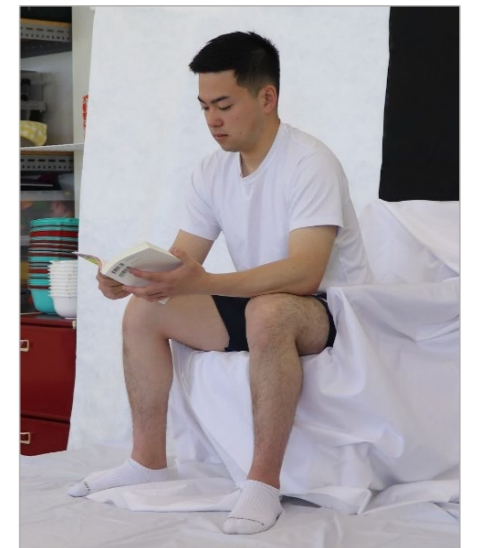


乾燥した顔料を粉末状にし、粘着剤で固めたパステルを使っています。カッターナイフ等で削って再び粉末状にし、スポンジ等で塗ったり、直接手で持って塗ることもできます。

水彩絵具のように、水で溶かすことのできる水溶性の色鉛筆(水彩色鉛筆)を使っています。水で溶かすことにより、グラデーションやぼかしの表現をすることができます。



「油絵は45年ぶりです。しまい込んでいた油絵具は、キャップが固まっていて、外すのに一苦労しました。大事に保管し、また使うことができ良かったです。」 I さん



初めてモデルをさせて頂きました。絵について素人ですが、全4回のデッサンモデルをしっかりと務めることができ良かったです。皆さんの完成した絵を見た時に、想像以上の素晴らしい作品で、モデルとしての実感が湧きました。総合教養学科2年 伊藤 頼扶